

大浦湾の砂ぐい打設抗議！防衛局は違法工事やう！

琉球弧を再び戦場にさせない！宮古島はいま…4.17 横浜集会へ！

- ◆日 時 4月17日（木）18時半～20時半
- ◆会 場 横浜市技能文化会館2階多目的ホール（JR 関内駅徒歩5分）
- ◆宮古島からの訴え：下地 茜さん（宮古島市議） ◆辺野古の現場から（映像上映）
- ◆主 催 島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会 ◆資料代 800円（学生無料）
- ◆協 賛 神奈川平和運動センター/基地撤去をめざす県央共闘会議

■12/22 の米兵の性暴力に抗議する沖縄県民大会は沖縄市民会館ホール（定員1500）で開催され、玉城デニー知事も出席し、会場あふれる2500人の結集で成功を収めた。県議会野党の自民・公明・維新の抵抗で従来の超党派の大会は実現できなかったが、女性団体が主導した新しい形の集会となった。年明け後も性暴力事件が発覚し、県民大会実行委は県民集会、記者会見、政府要請と積極的に動いた（2頁）

■12/28 沖縄防衛局は大浦湾の軟弱地盤に海砂を敷く作業をマスコミに公開し、「軟弱地盤改良工事に着手」と大々的に報じさせた。この日は土曜日で、前日の12/27が官公庁の仕事納めであり、本来なら年末年始の休日だ。作業もわずか2時間だけ、工事の進捗を印象付けるパフォーマンスは毎年恒例行事だ。（3頁）

■2025年元旦辺野古の浜では恒例の初興しに250人。「かぎやで風」（歌三線）で幕開け、平和を祈願。その願いを逆撫でするように、那覇の陸自第15旅団のHPに日本軍32軍牛島満司令官の辞世の句を再掲載。「県民への挑戦だ」（具志堅高松さん）。

■1/10 国が代執行で大浦湾の工事—海上作業ヤード造成に着手して一年、ヘリ基地反対協・海上行動チームはこの日にあわせて「1.10代執行NO 海上大行動」を開催、雨天のため瀬高の浜に45人が集まり改めて新基地建設反対を訴え相次ぐ米兵事件に抗議した。海上行動チームは船修理等の緊急カンパを呼びかけている。

■1/15 辺野古海域でボーリング調査中の作業船から油流出。埋め立て工事関連の事故が頻発している。1/20にはクレーン船でアンカーが落下し作業員が足の指を骨折。1/25油流出。2/1に作業員の骨折事故。無理な工事強行が現場にしわ寄せか。

■1/16 米海兵隊MV22オスプレイから400～450kgの貨物が訓練区域外の伊江島沖に落下事故。20日判明。幸い被害は無かった。伊江村は沖縄防衛局に抗議要請。落下・降下事故は沖縄県内で続出している。

■1/19 宮古島市長選は、オール沖縄推薦の現職座喜味市長が約2000票差で落選。

■1/29 大浦湾で、軟弱地盤改良工事のための砂ぐい打設作業が始まった（3頁）。

■2/1 辺野古県民大行動に580人参加。

■2/4 県専門家会議が普天間周辺のPFAS汚染について「汚染源は普天間基地の蓋然性が高まった」と報告。同日、宜野湾の市民団体宜野湾ちゅら水会が環境省など関係省庁に要請行動を展開したが、日米結託し、立入り調査を拒む姿勢が鮮明に。

■2/26 宮古島に市民の反対の声を無視して陸自電子戦部隊車両搬入を強行した。

■4/17 宮古島はいま～横浜集会には下地茜市議をお招きする。多くの参加を！

■みなさんからの辺野古カンパはヘリ基地反対協等現地団体を通じシュワブゲート前や海上の阻止行動等に役立っています。同封の振替用紙でカンパを！
郵便口座 00210-0-2021 沖縄連続講座

辺野古通信

第85号 2025年3月8日



12/22 沖縄県民大会に呼応する東京行動に400人



砂杭止めろ 1/24 官邸前抗議 90人

発行 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座（沖縄講座@横浜）
沖縄講座 HP <http://www7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/> QRコード➡



琉球弧を再び戦場にさせない！横浜集会 90 人参加

昨年 10/3 (木) 夕刻、横浜市内にて「琉球弧を再び戦場にさせない！沖縄・与那国島はいま～10.3 横浜集会」が開催された。主催は「島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会」(以下、結ぶ会)、神奈川平和運動センターと基地撤去をめざす県央共闘会議が協賛。会場の横浜市技能文化会館ホールには、悪天候にもかかわらず約 90 人が参加した。

冒頭、島しょ奪還作戦を想定した日米実動演習のニュース映像を上映したのち、冒頭あいさつに立った高梨晃嘉・結ぶ会代表世話人は、石破新内閣に防衛大臣経験者が 6 人も入っていることに注意を喚起し、「沖縄の戦場化を止めるためには政府の戦争政策を止めなくてはならない。憲法改悪を止める闘いと一体のものとして取り組む必要がある」と訴えた。

続いて講演に移り、「ミサイル配備から命を守るうるま市民の会」の照屋寛之共同代表の「沖縄・うるまからの訴え」と与那国島出身の大仲尊さんの報告「与那国島はいま」に参加者は最後まで耳を傾けた。

「物言わぬ民は滅びる！ 闘わぬ民は滅びる！」

照屋寛之さんは、まずポケットから手帳を取り出し、「私はいつも憲法を手帳に入れて持ち歩いています」と憲法 9 条の条文を読み上げ、「こんな素晴らしい憲法はどここの国にもない。日本が憲法を守っていれば、今のような状態にはならなかった」と指摘。照屋さんが毎週通っている辺野古と安和栈橋ゲート前の現況、2007 年 6 月の米海軍艦船の与那国島寄港強行から始まった宮古・八重山諸島の軍事要塞化に対する島々の人々の粘り強い抵抗闘争の経過と現状、ミサイル配備に反対するうるま市民の地域ぐるみの闘いを、市民が作成したドキュメント映像も紹介しながら、臨場感あふれる語り口で約 60 分報告。最後に「諦めたら負ける！ 物言わぬ民は滅びる！ 闘わぬ民は滅びる！」と結んだ。

軍事要塞化の先導役を担っている糸数町長を批判

大仲尊さんは、糸数健一与那国町長が町政と議会を蔑ろにして自衛隊誘致を推進し、東京や米国にまで出かけて「与那国が危ない」「国境の島の防衛強化が必



▲照屋寛之さん

▲大仲尊さん

要」等々と喧伝、日米両政府が進める琉球弧の軍事要塞化の先導役を担っていることを鋭く批判。全島避難の説明会などを通じて、これまで反対の声がなかなか出て来なかった島の中から、島の将来を危惧する声が出始めている現状を報告するとともに、独自の言語トゥナンムヌイや軍港建設が計画されている樽舞湿原、サンゴ礁など与那国島の独自の文化と自然の素晴らしさを強調。「みなさんに注目していただき、与那国の現状を変えるために共に闘いたい！」と締めくくった。

琉球弧の戦場化阻止！軍事植民地化に終止符を！

質疑の時間は十分確保することが出来なかったが、何としても琉球弧の戦場化を阻止し、軍事植民地化に終止符を打ちたい、そのために共に闘いたい、というお二人の熱い思いが確実に伝わってきた。なお当日会場で寄せられたカンパは 45830 円集まった。一部は集会運営費に充てるとともに、残金を辺野古現地に送金することができました。

(★結ぶ会事務局から：会場のマイク調整の不備で講師の発言が聞き取りにくく、また照屋さんが当日持参され映写したパワーポイントの映像は画面が小さく、資料として印刷することもできなかったため、参加者のみなさんにも大変なご不便をおかけしました。結ぶ会事務局として、講師のお二人、参加者のみなさんにお詫びします。)

